

平成25年8月20日

全国紙 読売新聞 掲載

おおぞらのお別れ室が全国紙に掲載されました。

納得いくペット葬に

イヌやネコなどのペットは、大切な「家族の一員」だ。ペットがその命を終えた際、どう弔うかは、家族にとって大切な問題だ。適切な業者などを利用して、納得のいく葬儀をしたい。

(石原毅人)

■自治体でも処理

9月に施行される改正動物愛護管理法では、ペットの飼い主の責務として、最後まで適切に飼育すること(終生飼養)が明記された。一方、ペットが死亡した後の亡きがらは、衛生面などを考慮して適切に処理される必要がある。公園や河川など公共の場や、他人の土地などに勝手に埋めたり、捨てたりすれば、不法投棄に該当する可能性もある。

飼い主が適切に処理できない場合、イヌやネコといった一般的なペットであれば、多くの自治体が、清掃事務所などを通じて有料で引き取り、合同で火葬、埋葬してくれる。例えば、東京都中央区の場合、体重25kg以下の動物まで受け付け、手数料は

●ペットの葬儀料金例

体重	立会葬	個別葬	合同葬
極小(小鳥など)	4万2000円	2万1000円	7350円
5kg未満	4万2000円	2万1000円	1万5000円
5kg~10kg未満	4万7250円	2万6250円	1万5750円
10kg~20kg未満	5万2500円	3万1500円	2万1000円
20kg~30kg未満	5万7750円	3万6750円	2万6250円
30kg~50kg	6万8250円	4万7250円	3万6750円

(「評判のいい」ペット霊園検索サイトにある「東京動物霊園」の場合)



専用施設でペットにお別れをする家族たち

1頭2600円だ。最近では、ペットは家族の一員という認識の高まりから、専門業者による手厚い葬儀を希望する飼い主も増えている。ペットを弔うと同時に、飼い主がその死を受け入れ、気持ちの区切りをつけることは、悲しみから立ち直るためにも重要とされる。

■返骨の有無に違い

ペット葬は、まず、「合同火葬」か「個別葬」か、

葬「か」個別火葬」かで、大きな違いが出る。一般的に、合同葬では、亡きがらを託された業者が他の動物と一緒に火葬、霊園の合同墓地に埋葬するため、返骨はない。自治体が行う処理とほぼ同じだ。一方、個別葬では返骨が可能で、遺灰を手元に置くこともできる。さらに、個別葬に飼い主も立ち会う「立会葬」なら、セレモニーホールなどでの最後

●ペットの葬儀業者を検索・比較できる主なサイトの例

企業	イオンリテール	アニコムパフェ
サイト名	イオンのペット葬	「評判のいい」ペット霊園検索サイト
提携業者数	関東、中部・北陸、中国・近畿地方の18都府県18霊園	北海道、東京、福岡など8都道県16霊園(移動式も追加予定)
主な特徴	移動式は扱わない。50項目の品質基準。プランに応じ最大5000円の香典がもらえる	掲載基準を新たに制定。口コミ評価が施設ごとに見られる。見舞金2000円がもらえるプランも

のお別れや、「お骨上げ」をする機会なども用意される。費用は、一般的に個別色が強まるほど高くなり、施設やペットの体重によっても異なる。ペット霊園などを紹介する「イオンのペット葬」を展開するイオンリテールによると、これらの利用比率はおおよそ、「合同5割、個別3割、立会2割」で、葬儀費用の平均は約2万5000円という。

このほか、火葬炉を積んだトラックを使い、自宅や、自宅近くで火葬する移動式のペット葬もある。

■業者選び慎重に

業者選びは、どうすればいいだろうか。環境省によると、2

010年11月時点で、電話帳に掲載されていたペットの葬儀業者は全国で970社あった。一方、国民生活センターによると、「葬儀の仕方が電話説明と違った」「どこに埋葬したのか尋ねたら、さらにお金を要求された」といった苦情も報告されている。悪質業者が、火葬を依頼されたペットの死体を、埼玉県内の山林に大量に不法投棄していた事件(10年)も記憶に新しい。業者検索ができるインターネットサイトも多数あるが、独自の掲載基準を設けているところもある。

例えば、「イオンのペット葬」では、火葬から納骨、埋葬、供養まで、霊園内で安心してできるよう、固定式の火葬場設備や納骨堂などの供養施設を有することや、明確な料金体系など、「50項目の基準をクリアした業者・霊園と契約している」という。また、ペット保険を手掛けるアニコムグループのアニコムパフェが展開する、「評判のいい」ペット霊園検索サイトも、掲載基準を8月1日付で新たに制定、明文化した。同社のサイトは、実際にペット葬を行った人の「口コミ評価」を、施設ごとに読めるのも特徴で、業者選びの参考になりそうだ。

火葬 「合同」「個別」「立会」